

# ルイスツブゲンゴロウ

## コウチュウ目ゲンゴロウ科

*Laccophilus lewisius* Sharp

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

### 選定理由

全国的に減少傾向にある。県内でも生息地が比較的局所的であり、9箇所で確認されている。生息地の環境変化による減少のおそれが高い。

### 形態

体長3.9~4.7mm。体型は逆卵形で幅広い。背面は淡黄褐色~黄褐色。腹面は黄褐色。上翅には6~7条の暗褐色~黒色の輪郭をもつ縦条が並列するが、不規則に断続、合着する。上翅は微細な網状印刻に密に覆われやや強い光沢がある。

### 国内分布

本州、四国、九州。

### 県内分布

加賀市、金沢市、津幡町、宝達志水町、中能登町、志賀町、輪島市、珠洲市。

### 生態

成虫は4~10月に確認されている。ツブゲンゴロウと同所的に生息する場合に、生息環境が悪化すると、本種が先に確認されなくなるようである。

### 生息地の条件

平野部~丘陵部において浮葉植物などの豊かな植生がある、池沼、湿地、放棄水田などの止水域に生息する。

### 生存の危機

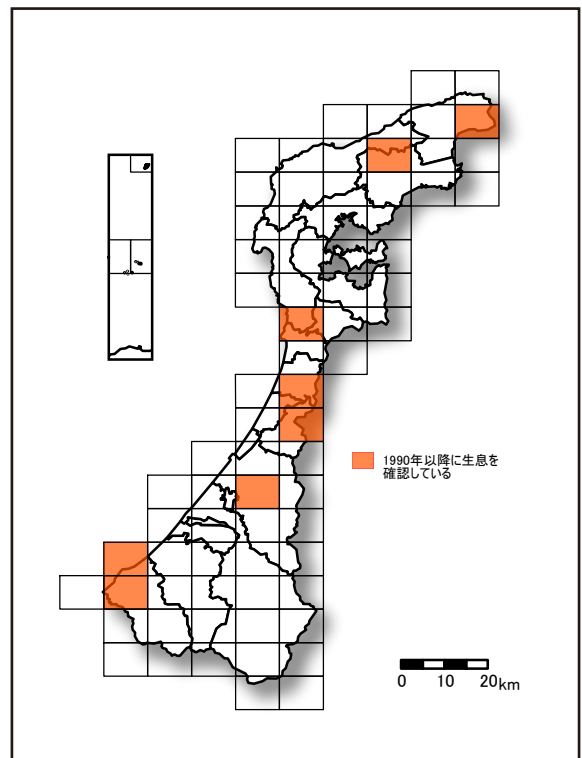
池沼、湿地の開発、ため池の管理放棄。各種排水や農薬による水質汚染。放棄水田の植生遷移。アメリカザリガニ、オオクチバスなどの外来種の侵入、コイの導入が脅威となっている。加賀市の生息地では、アメリカザリガニの侵入により、他の多くの水生生物とともに本種も絶滅した。ため池の維持管理の継続、放棄水田の湛水化が保全上重要である。外来種の侵入防止および、早期の駆除も重要である。(A, B, C)

### 参考文献

森 正人・北山 昭 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版. 東京.  
富沢 章 2006. 中能登町(旧鳥屋町)春木で得られた昆虫類. とつくりばち, (74) : 61-64.



標本提供者: 富沢章



県内の分布